

実践 交流 中学国語

目的や必要に応じて要旨をとりえる力を高める学習指導 ～説明的な文章を図式化する学習活動を通して～

東広島市立高屋中学校

居川 あゆ子

一 はじめに

中学校学習指導要領（平成20年）国語第一学年の内容「C読むこと」の指導事項イには、「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。」

文献研究等から、説明的な文章を図式化する学習活動を「説明的な文章を、要点をかいづまんで一目でとらえやすい形にすること。」とし、図式化の方法を、次のようにした。

- ① 文章中のキーワードに印をつけながら読む。
- ② キーワードの中から、重要なものを選択する。
- ③ キーワード同士の関係を図に書き込んでいく。
・重要なキーワードは大きく書く、色ペンで書く。
- ④ 書いた図を見ながら、もう一度文章を読む。
- ⑤ 図の修正を行う。
- ⑥ 図にタイトルをつける。

三 授業計画

二 文章を図式化する学習活動とは

ある。中学校学習指導要領解説国語編には、「要旨をとらえることについて、「目的や必要に応じて大切な情報を選択し整理することが重要である。」と述べられている。これまで私の授業を振り返ると、生徒は、目的や必要に応じて要旨をとらえることは十分できていなかった。その原因は、私が、目的や必要に応じて大切な情報を選択し整理させていたことにある。

そこで、説明的な文章の学習において、図式化させる。そのことによって、目的や必要に応じて要旨をとらえる力を高めることができると考え、本単元を実施した。

○指導計画

主な学習内容	
一 2時間	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目標を設定する。 ○学習課題を設定し、課題解決の手順を確認する。 ○自己紹介文を図式化する。 ○既習の説明的な文章を図式化する。
二 3時間	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題1「食感のオノマトペ」で読書レシピを作ろう。 ○全文を読む。初発の感想をもつ。 ○文章の構成を確認する。 ○文章を図式化する。 ○図をもとに、読書レシピを完成させる。
三 2時間	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題2「食感のオノマトペ」を根拠に、意見文を書こう。 ○全文を読み、キーワードを見つける。 ○見つけたキーワードを吟味する。 ○図式化を行う。 ○図の修正を行う。 ○図を文章に書き換える方法を確認する。 ○図をもとに、意見文を書く。 ○図を評価する。 ○学習の振り返りを行う。

授業では、一つの教材文に二つの学習課題を設定した。これは、生徒に「目的や必要に応じて要旨をとらえる」とは何かを理解させ、課題に応じた視点をもたらせるためである。

また、生徒にとって、文章を図式化する学習は、初めてであった。そこで、一次で教材文以外を使用し、図式化の方法を指導した後、二次・三次で単元の目標に迫れるようにした。

- 単元名 『情報を解釈しよう』
- 教材文 「食感のオノマトペ」 早川文代
- 目標 目的や必要に応じて要旨をとらえることができる。

四 図式化の実際

図1は、読書レシピ用に作成した図である。図の中には、論の展開と読書レシピの項目に合わせた三つのまとまりが作られている。

図2から図4は、意見文用に作成した図である。図2は、上から下に流れが作られている。図3は、主張と根拠をシンプルにまとめた図と言える。図3は、文章の展開に沿って、文章全体の内容を丁寧に図式化している。図4のXは図を修正した跡である。これは、生徒が説得力のある意見文の根拠を探すという視点をもつているからだと考へる。

課題1「食感のオノマトペ」で、読書レシピ（読書案内）を作ることになりました。項目は①キャッチコピー②食感のオノマトペとは③日本語の食感のオノマトペの特色④筆者の伝えたいこと⑤読後の感想などです。②③④について、本文を図式化して考えてみましょう。

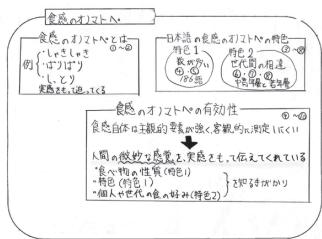


図1

課題2 食感のオノマトペは有効だという題で、二段落構成の意見文を書くことになりました。筆者になったつもりで、教材文を根拠に意見文を書きましょう。ただし文章を図式化すること。

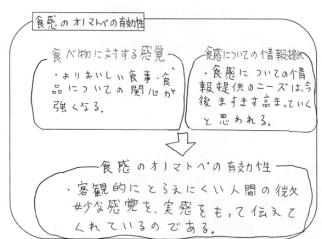


図2

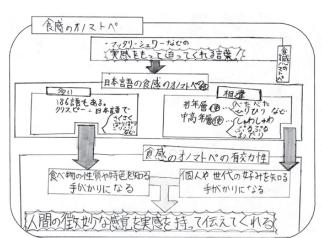


図3

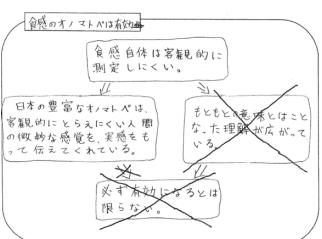


図4

五 おわりに

読書レシピ用の図と、意見文用の図を比較すると、前者は図の中の要素が独立しているが、後者は、要素同士が矢印で結ばれており

い。

授業を通じて、生徒達は、様々な学習課題に応じた適切な視点をもてるようになつた。そして、その視点を基に説明的な文章を図式化する学習活動を行つた結果、大切な情報を選択し整理することが可能となり、生徒の目的や必要に応じて要旨をとらえる力を高めることがとなつた。今後もさらに実践を重ね、図式化を通して、目的や必要に応じて要旨をとらえる力を高める学習指導を進めていきたい。

いがわ あゆこ 広島県東広島市立高屋中学校教諭。本稿は、平成二十二年度前期教員長期研修での実践による。

の関係を正しく表現することができている。図式化の後、生徒は、意見文を書いた。図

4をもとに書かれた意見文を紹介する。

関連性があることを表わしている。この違いは、生徒が学習課題に応じた適切な視点をもつことができたことによると考える。